



千地申 10号 「那古船形駅の無人化」に関する交渉を行う!

地本は、那古船形駅の無人化の提案を受けました。本施策は、今後の就労人口減少を見据え、限られた要員で効率的に駅を運営するために行うものです。

一方、那古船形駅は「エルダー社員の雇用の場」として委託した経緯があるため、無人化にあたっては他駅にて雇用の場を一定程度維持する必要があります。また、無人化以降は異常時における代行バスへの乗り換えを那古船形駅で対応することは難しくなることから、那古船形駅での折り返し運転を防ぐ対策が必要です。そして、南海トラフ地震のような大地震の際には津波の襲来が予想されるため、無人化にあたっては防災面についても議論が必要です。

地本は、お客さまが安全・安心にご利用でき、かつ異常時や災害に強い駅を目指して団体交渉を行いました。

■施策の目的と根拠、業務委託との整合性

- (組合) 那古船形駅は「エルダー社員の雇用の場」として委託を実施してきた。今回、無人化する根拠を明らかにすること。
- (会社) 「エルダー社員の雇用の場」の確保の考え方はある。一方、お客さまのご利用状況、エリアや駅設備等を総合的に勘案し、全体的に労働人口が減少する傾向も鑑みて、那古船形駅を無人化することとした。
- (組合) 今後の千葉以東の委託駅のあり方に不安を感じる。館山エリアに「エルダー社員の雇用の場」を残していく考えはあるのか。
- (会社) エルダー社員の雇用の場を確保しつつ、全体的な流れを見ながら一定程度維持していく。

■地元自治体への説明について

- (組合) 施策実施にあたり、地元自治体とどのような議論を行ったのか。
- (会社) 提案時に館山市と協議し、現在も調整を行っている。地元の方々も、駅舎を活用できないかなど、前向きな反応であった。無人化に対する理解は得られたと考えている。
- (組合) 施策実施後も、現場ではお客さまからご意見をいただくこともある。支社でもフォローを行うこと。
- (会社) 支社でも対応していく。

■異常時対応について

- (組合) 那古船形駅での異常時の折返しを防ぐため、那古船形～館山間の「平久里川橋梁」の風対策を行うこと。
- (会社) 費用面の問題があり、すぐに取り組むことは難しいが、風対策の必要性は認識している。
- (組合) 地方創生の観点で、南房総に鉄道でお客さまを呼び込むには、輸送の安定化が必要だ。
- (会社) そのような観点も踏まえて取り組んでいく。お客さまを呼び込むことは引き続き取り組む。
- (組合) 3月16日のダイヤ改正で那古船形駅は棒線化するが、異常時の折り返しはどうなるのか。
- (会社) 場所にもよるが、「抑止」の取扱いとしていく。



■津波等の防災について

- (組合) 現行、会社が示していた避難場所は、ガード下や津波浸水区域、土砂崩れの恐れのある箇所を経由し、30分以上かかってしまう。津波に備え、より安全な場所へ避難するよう改めること。
- (会社) 無人化にあたり館山市と協議し、より近くで海拔の高い場所を指定した新しいマニュアルを作成したところである。
- (組合) 待合室にある避難場所への地図が見つらいため、分かりやすい場所へ設置すること。
- (会社) 2月28日から掲示を新しくした。大きさは以前と同じA4サイズである。
- (組合) JR東海の紀勢本線では、ポスターサイズで大きくわかりやすい避難案内図が設置されている。JR東日本でも見やすいものを検討すべきだ。
- (会社) 防災に関しては引き続き取り組んでいく。今後検討していく。



お客さまが安全・安心にご利用でき、かつ異常時や災害時に強い駅を目指すため、施策実施後の問題点・ご意見を地本へお寄せ下さい!